

千刈狸の呟き

「規制 (regulation)」

北京オリンピックを見ていて、思い出した。

スピード社製の水着が問題となった水泳も、日本水泳連盟が規制を撤廃して事なきを得たような結果だった。

規制といえば、数年前にあるホテルのテレビで中国のF1（フォーミュラー1）を中国語で放送していた。題名が、「世界一級方程式」となっている。

オリンピックと同じ、早いものが勝つという単純な車のレースなのであるが、細かい規制（regulation）がかけられている。そういう意味で、「世界一級方程式」となるのだろうか？ 子供のころ、前4輪、後2輪の6輪F1カーを雑誌で見たが、数年で規制がなくなりなくなってしまった。ホンダエンジンの過給器（ターボ）が強いかからターボに制限が入り、タイヤ交換を要領よくやると勝てるためタイヤセットを制限した。エンジンを何度も交換して勝つ連中がでるとレースに使用できるエンジン数に規制をかける。ある方法で差が出やすいとそれを制限する。規制の穴をかいくぐって工夫し、予選の燃料を少なくし、予選の順位を上げる方法をとると、次の年は予選後の燃料の量でスタートさせる等。去年は、制限がかかっていないオイル系統が開発の要点だと解説者が言っている。規制は強いものいじめに見えるが、車の差を減らすのが目的であろう。単純な走る、泳ぐ、飛ばす競技にくらべて、機械を使用するうえ、周辺のスタッフ、天候、路面状況等で状態が複雑になる。同じく、世界の一般道使用のレ

ースでWRC（ワールド・ラリーカー・チャンピオンシップ）も同様に、規制に縛られている。自分としては山を駆け抜けていく姿はF1より迫力があると思うが、人気はいまひとつでトヨタも撤退しF1へ転身してしまった。日本で行われているシリーズのラリージャパンも、残念ながら来年は開催があやしいらしい。そこでは規制の穴を見つけたつもりで作成した車に違反がみつきり、1995年に天下のトヨタも一時出場停止を宣告されている。規制に縛られているから混戦なのかということ意外にも、トップを争うのは数台かつ数人であることも興味深い。主役はドライバーだが、スタッフとの総力戦の結果なので、優勝者は必ず周囲に感謝を捧げる。トヨタの車開発物語に、たしか「当時は車は技術の総合工芸品で、開発が難しい。」というセリフがあった。人、物、時間、対する症例の事情で条件が変わっていくのは、医療に似ているところがある。パチスタ手術で有名な須磨先生も、「手術はF1レースのようなもの。」というコメントがあった。レーシングドライバーはスタートからゴールまでイメージトレーニングするらしいが、須磨先生も同じように手術のイメージトレーニングを重ねていた。コミック・テレビドラマの医龍で、ある登場人物が言う「チームは掛け算……。」医療も規制でがんじがらめだが、元気のいいところもある。規制されていない部分を見つけるのも大事かもしれないが、それぞれの部門の掛け算の積を大きくすることも必要と考える。

山 狸